

## 別記様式（第4条関係）

## 会 議 録

会議の名称	第4回総合計画及び地域創生戦略委員会	
開催日時	令和2年7月20日（月）14時00分～16時00分	
開催場所	宍粟市役所本庁舎 401・402・403 会議室	
議長（委員長・会長）氏名	林 昌彦	
委員氏名	（出席者） 大坪津義、小林由佳子、秋山裕美、谷口朱美、東 里司、宮辻弘学、田中一成、西山大作、坂本幸子、本條 昇、円増万司、林 昌彦、山田 寛、西川彩児、山國和志、高橋美佐子	（欠席者） 春名文子、岡本一也、古根川淳也
事務局氏名	企画総務部：前田部長 企画総務部地域創生課：西嶋課長、清水係長、前田係長、白畑主査、朱山主査 産業部：名畑部長、中村次長、谷本次長 産業部まち・にぎわい課：西川課長	
傍聴人数	1名	
会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	（非公開の理由）
決定事項	（議題及び決定事項） （1）第2次総合計画基本構想等の1年の期間延長について（基本構想、前期基本計画・第1次戦略、第三次行革大綱） 【資料②、③】 （2）前回結果のフィードバックについて【資料④-1、④-2、④-3 ④-4、④-5、④-6】 （3）計画素案への関係団体意見に対する考え方について 【資料⑤-1、⑤-2】 （4）計画（基本目標と基本方針）の具体的内容について ①観光の振興【資料⑥-1、⑥-2、⑥-3】 （その他） （1）第5回宍粟市総合計画及び地域創生戦略委員会の開催日について	
会議経過	別紙のとおり	
会議資料等	別紙のとおり	
議事録の確認	（委員長等） 林 昌彦 委員長 （確認日8月6日）	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
委員長	<p>■開会</p> <p>■あいさつ</p> <p>新型コロナウイルスは本当にやっかいなウイルスで、目に見えない、予想以上に対応しづらい問題です。まちづくりという点では、災害の問題もあります。今年は幸い宍粟市では大雨などありませんでしたが、いつ、災害に見舞われるかもしれません。人災にならないよう常日頃の備えが、感染症についても必要だと改めて感じています。長期的な観点からどうするのかという議論をしていく場ですので、充実した議論ができればと思います。ご協力をお願いいたします。</p>
委員長	<p>■協議事項</p> <p>協議事項1点目は第2次総合計画基本構想等とありますが、基本構想、前期基本計画、第1次戦略、第3次行革大綱が一体のもので、これらの1年の期間延長について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(1) 第2次総合計画基本構想等の1年の期間延長について(基本構想、前期基本計画・第1次戦略、第3次行革大綱)【資料②、③】</p> <p>(現行計画の延長及び委員会スケジュールの見直しについて資料②、③に基づき説明)</p>
委員長	<p>現在議論している件は、当初予定では今年中に議論を終えて、議会の審議にかける予定でしたが、半年間のブランクは大きいということで、無理に帳尻を合わせるのではなく、余裕をもって議論をするという提案です。それに付随して、手続として当委員会への諮問に対して答申が必要になります。この諮問に対し、どう答えるかということが協議の1つ目です。</p> <p>8月31日予定の次回委員会を目途に答申を出してほしいという依頼です。市長さんからいただいた諮問に対し、1年延期が妥当か否かということです。いずれにしても、理由をつけて答申する必要があります。質問や補足説明が必要という方がいらっしゃればお願いします。</p> <p>私から原案を示しますと、1年間の延期はやむを得ないだろうと思います。もちろん、その間に何が起こるかは分かりませんが、帳尻を合わせるようにスピードアップして議論すると、1か月に2回集まる必要があるなど委員にとっても負担だと思います。1年の延長を認めたいと思いますが、</p>

委員長	<p>反対の方はいらっしゃいますか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>異議がないようですので、答申の方向性として1年延長が妥当であると思いたいと思います。1年延期した場合、資料②の3ページにあるように、指標についてどうするかが問題となります。1年延期したときの指標の設定の仕方、あるいは指標の見直しもあるのか、指標はそのまま、目標値をどのように変更していくのかについて、事務局案はありますか。</p>
事務局	<p>現行計画では令和2年度、令和7年度にめざす数値を設定しており、それぞれ計画年度が令和3年度、令和8年度に伸びるわけですが、既に指標を達成したものはそのままいいか庁内で確認し、変更の必要があるものは変更しますが、基本的には見直さずに1年ずらす形にしたいと思っています。今後の後期基本計画の中で、より良い指標、項目も含めてご協議いただきたいと思っています。</p>
委員長	<p>既に半年近く過ぎており、指標設定について一から議論するのは時間的にも難しいですし、むしろ後期基本計画に重点を置いて議論する必要があります。指標は大きく手直しせずに、そのままでは不都合なもののみ部分的に見直しするという案が示されました。これについて質問、ご意見はありますか。</p> <p>なければ、基本的な方針を認めるとして、個別にどこをどう見直したのか、事前に委員会に示していただき、それを受けて最終的に結論を出すという段取りにしたいと思っています。2週間ほど前に指標の見直しに関する資料を送っていただき、確認をした上で指標の設定について最終的な結論を出すということにしたいと思っています。よろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
委員長	<p>そのほか、これからの手続も含め、ご質問はありますか。</p> <p>(意見なし)</p>
委員長	<p>ないようでしたら、協議事項1つ目は終わります。2つ目は前回結果のフィードバックについて、事務局から資料④1～6の説明をお願いします。</p>

事務局	<p>(2) 前回結果のフィードバックについて【資料④】  (前回の意見に対する考え方、回答について、資料④-1～④-6 に基づき説明)</p>
委員長	<p>委員会の意見を踏まえ、一部修正するところもありますし、さらに検討してその結果を待って必要であれば修正するという項目もありました。ご質問、ご意見等ありましたらお願いします。</p>
委員	<p>資料④-1 の2ページ目、基本政策3「商工業の振興」の1点目、高齢者雇用については、雇用のマッチングについて回答していただいておりますが、私が申し上げたのは、生涯現役社会をまちづくりの目標とすることが重要ではないかということです。そのためには複合的な施策が必要になると思います。1つは働き手の個人サイドの健康管理や就業意欲などのインセンティブです。企業サイドとしては、高齢者雇用というより働き方そのものを変えるというか、定年を設けない事業づくりというインセンティブです。雇用延長制度もありますが、生涯現役という目標に資する雇用政策という捉え方で、もう少し高次元の視点が必要ではないかということです。</p>
委員長	<p>個別の施策というより、まちづくりのビジョン、構想のところで重要な要素ではないかということです。今の意見に関連して意見はございますか。</p>
副委員長	<p>ここで行政側が提示しているのは、非常に限られた分野についての回答です。委員が言われたのは、働く側が高齢者になっても働く意欲を持ち続けるために、健康面、教育面、訓練面など社会の仕組みをつくり、環境の整備をしなければならないということだと思います。雇用者側でも、若い人だけでなく高齢者も働きやすい環境を設定していくため、経営者側も意識を改革しなければいけませんし、行政も仕組みを整える必要があります。また、インフラも整備していかなければいけないですし、経営側に何らかの補助が必要であれば、それも考えなければいけません。地域全体が高齢者の雇用や働き方、社会の仕組み全体を考えていかなければいけないということではないかと、先ほど聞いて理解しました。</p>
委員長	<p>ここでどのように修正するという回答はありませんが、高齢者の健康だけでなく、長く働ける環境は若い人にも大切です。世代を超えてまちづくりの目標として位置付けられないか、見直しをしてみたいと思います。</p>

委員	<p>農業振興についてです。人・農地プランについて、狭い範囲ごとに考えていくことが市の考えだと思います。人・農地プランが始まって期間が経っていますが、なかなか進んでいない状況です。年に何回か催促された中で、進んでいるならいいのですが、広い範囲で考えていかなくは間に合わないと思っています。</p>
事務局	<p>一番大切なのは、耕作放棄地になる可能性のある部分を含め、住んでいる地域の農地をこれから誰が担っていくかということです。将来管理する人がいるかも含めて、そういう話し合いは自分たちで考えていかないと、いきなり広い範囲をみんなでも考えても危機意識が持てない状況になると考えています。今年はコロナの関係で農会長会を開けていませんが、農会長にこういう制度があることを周知し、詳しく聞きたいという希望があれば、出前講座ということで農会や自治会に出向く対応もしています。</p>
委員長	<p>従来のやり方では進まないの、違う発想で、違う仕組みをつくって取り組む必要があるという意見だと思います。どちらが正しいかは一概には言えませんし、どういう単位で、広いのがいいのか狭いのがいいのかは私にも分かりません。ケースバイケースですので、「こうしなければならない」という議論ではなく、柔軟な対応を示すことができると思います。原則として狭い範囲でならなければならないということではないと思います。</p>
事務局	<p>そういうことも含めて検討したいと思います。</p>
委員長	<p>他市も含めて、広い範囲でやるのが効果的であるとか、うまく進んでいるということがあれば、参考にすべきです。少し調べていただければと思います。ほかにありますか。</p>
委員	<p>非農家を含め、市民の農業に対する意識が急務であると以前言いましたが、コロナ感染が拡大してからは農業で働きたいとか、農業経営をどうしたらいいかという問い合わせが増えています。世の中の環境も農業に目を向けられていると思うので、今のうちに動くのも大切だと思います。</p>
委員長	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、人々の農業に対する意識が変わっているので、来年度の施策等でも反映されることがあれば、検討いただければと思います。</p> <p>前回結果のフィードバックについて、ほかにご意見、ご質問はありません。</p>

事務局	<p>んか。これで議論が終わりということはありませんので、改めてお気づきの点があれば事務局に出していただければと思います。</p> <p>(3) 計画素案への関係団体意見に対する考え方について【資料⑤】 (関係団体意見に対する対応表について資料⑤-1、⑤-2に基づき説明)</p>
委員長	<p>これについても引き続き議論は進めていくことになっていますが、事前に送られた資料についてご意見、あるいは修正案が分かりづらいなどがあればご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p>
事務局	<p>(4) 計画（基本目標と基本方針）の具体的内容について ①観光の振興について【資料⑥】 (資料⑥-1、⑥-2、資料⑥-3に基づき説明)</p>
委員	<p>景観形成地区として指定された直後は、対策などは何も決まっていないということでしたが、あれから時間が経ちましたので、宍粟市としての今後の展開があれば、教えていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>宍粟市には酒蔵通りという貴重な資源があり、人が歩く通りとして大切ですので商店街の道路を石畳風に変える整備を今年度から始めます。ただし、それだけで景観が形成され、利用が高まるわけではありませんので、指定された趣旨にのっとりこれから地域の皆さんと一緒に検討していきたいと考えています。</p>
事務局	<p>付け加えますと、古民家を改修する費用は、兵庫県と共に宍粟市も支援をさせていただきます。道路関係は行政主導でできますが、街並みという所有者がある個人の財産は、山崎中心市街地活性化委員会の皆さんが、街並みを活用して地域を活性化し、景観形成のためにやってくれることを市も支援をして、双方向で景観形成できればと考えています。</p>
委員	<p>3年間の助成事業が終わりを迎え、その後の継続は宍粟市単体になると想像しています。景観形成区域の修景に対しての県の助成に、プラスアルファで地域行政から助成を受けている地域もあると思うので、継続をさせるための事業を具体的に示していただけると心強いと思います。</p>

事務局	<p>ご指摘いただいたことについては、制度的なものが構築できていません。兵庫県には古民家活用などの制度等がありますので、市も一緒になって支援をさせていただくために、この期間の中で整理をしたいと思います。</p>
事務局	<p>制度的には確立したものはありませんが、市では頑張る団体や地域を応援するために、ふるさと納税を活用したガバメントクラウドファンディング制度を設けています。これは、地域の団体の皆さんからご応募をいただき、全国各地の趣旨に賛同された方からの寄付金を原資として団体へ補助金を出していく制度です。このような制度も活用しつつ、先ほどおっしゃった、恒久的な制度も必要ではないかというご意見は、課題として捉えさせていただきますと考えています。</p>
委員	<p>資料⑥-1の一覧表の「課題」の2つ目に、「周辺自治体と連携した広域による観光ルートづくりが必要」とあるように、今後、点ではなく面で対応が必要になってくると思いますが、それに対する取組や例示がないようです。その点は、どのように考えているのでしょうか。</p> <p>下から3つ目の「日帰り客が大半を占めている」という課題の解決方法の「農家民泊や森林セラピー体験等」は、宍粟市ならではの取組と思いますが、数量が確保できないのではないかと思いますので、北部地域にある既存の施設の利活用も考えた方がいいのではないかと思います。</p> <p>「森林セラピー体験者数」は目標が 1,500 人となっていますが、実績から見ると厳しい気がしますので、見直した方がいいと思います。</p> <p>この一覧表は、「課題」のところと同じ課題が何回も出てきて、「方向性」「取組」となっていますが、通常の手続きとして、「現状」「課題」が1回出てきて、それに対する「方向性」が重層的にくる整理の仕方が多いのではないかと思います。</p>
事務局	<p>各市町との連携のところで、具体的な取組の説明はできていませんが、定住自立圏をたつの市、宍粟市、佐用町、上郡町の2市2町でしているものと、姫路市を中心として8市8町でしているものがあります。1つの自治体では滞在時間が短いので、関係する所をネットワークでつないで滞在時間を長くしていく、モデル的なツアーもやっていますが、滞在型観光につながらないという課題があります。</p> <p>PRのところでは、「魅力発信の強化」ということで、阪神間でのPRやたつの市でのPRなど各市町と連携して、滞在型につなげていきたいと思っています。なかなか滞在型にならないという兵庫県の課題がありますので、</p>

副委員長	<p>見るだけの観光から滞在時間を長くする効果もある体験型にどうシフトしていくかが重要ですし、食の充実も必要です。兵庫県で、山城を活用した地域の活性化の取組が進められている中で、宍粟市も連携しながら、滞在型にしていけるように進めていきたいと思ひます。施設の受入れのキャパとして、約 100 名の宿泊機能がある波賀サイクリングターミナルの楓香荘が老朽化で廃止となりましたので、これを補うため、今ある資源を活用するというこゝで、学校の跡地や空き家の活用を検討します。</p> <p>セラピーの指標については、目標の 1,500 人は実態の 3 倍以上ですが、観光協会やセラピーの先進地の信濃町と連携し、企業プログラムを充実させて企業に売り込んでいくこゝで、初年度の 700~800 名から目標に近づけていきたいと思ひます。課題の整理ができてないところは、整理をさせていただきたいと思ひます。</p> <p>昨今、観光に頼り切った地域は厳しい状況になっています。宍粟市全体の産業構成の中で、これから 5 年、10 年、観光業をどのくらいの規模で考えているのでしょうか。観光に関わる就業者の数や観光から得られる収入源が、宍粟市全体の産業構成の中でどれくらいの割合を占めれば観光に力を入れているという状況になると考えているのでしょうか。</p> <p>観光としては、美観地区のように地域を限定して、そこに人を呼び込もうとしているのか、それとも宍粟市全体、自然を売りにして受け入れる地域として考えているのでしょうか。自然を売りにするには、お客さんが自然を満喫していろいろな体験をして、街全体をゆったりとした気持ちでぶらぶらと観光をする、徒歩やサイクリングなどで、都会では味わえないゆったりとした気持ちで自然に親しんでもらうのが売りになるのではないかとと思ひます。例えば、山崎は観光の人が平日に来てゆったりとまちを歩けるインフラ整備になっているのでしょうか。</p> <p>山崎の第一印象は、酒蔵通りは車が多く通って歩きづらいまちだと思ひました。観光客がゆっくり街並みを楽しんで歩ける雰囲気だろうか、観光客に優しいまちづくりができているだろうかと思ひます。観光客を呼ぶには、土日・休日に通行止めにするといいかもしれませんが、平日も来てもらわないといけません。</p> <p>観光客に優しいという前に、地域の人たちに対して優しいまちづくりができてないのに、観光客に対して優しいまちづくりなど到底できないのではないかとと思ひます。地域の人が安心・安全に住めるまちは、観光客にとっても住みやすく、行って楽しかった、見どころがあったと思われるのではないかと思ひるので、基本的な考え方を変えていただきたいです。</p>
------	---



事務局	<p>整備予定の石畳も、車が多く通ると寿命もあっという間に尽きるのではないかと思います。車道と歩道の区別やサイクリングロードの整備をして、危険がないようなインフラ整備をする必要があるのではないかと思います。</p> <p>まず、産業の中でどれくらい観光産業が占めているか、目標をどれくらいにするかということですが、林業は国内の流通がなかなか進まない中で、少しずつ宍粟市の中で活性化しており、約30の事業者がいますし、製造業も林業関係で振興しています。今、数字を持ち合わせていませんが、そういった中で、令和元年度の観光入込客数は97万9,000人という数値が上がっており、この方々が宍粟市の中で1,000円落としていただくと約10億円、1,500円落としていただくと約15億円となります。目標としては、産業の中でどれくらいを占めているかという整理と、宍粟市の入込客数でどれくらいお金を落としていただくか、観光産業としてできるのかというところの整理ができていませんので、その視点も持って課題として整理させていただきます。</p> <p>美観地区など特定の地域を推進するのか、宍粟市の全体を通して推進するのかという点については、中国道が近い中で一番に来ていただける所は山崎の酒蔵通りですし、宿泊施設や店舗もオープンするというので、2つ推進の軸があると思っています。まずは、宍粟市の玄関口である酒蔵通りへ行っていただくよう誘導し、そして一宮、波賀、千種の豊かな自然、体験など宍粟市北部の魅力を情報発信して、2回目には宍粟市の北部まで行ってみようというふうに、2回、3回と来ていただく仕掛けをつくり、観光入込客数を増やし、観光産業の活性化をしていきたいと考えています。</p> <p>宍粟での体験を目的に来られる方は、何度もリピートで来ていただいています。このコロナの状況の中でも、キャンプ場の問い合わせが多くありました。宍粟市の北部にはたくさんキャンプ場がありますので、そこへの誘導を強化し、かつ、キャンプ場プラスアルファのものも紹介していくために、大阪が本社のアウトドア専門の株式会社モンベルと、明日、協定を結び、ランドデザインを検討していきます。アウトドアを通じて宍粟市の魅力をどのように描いていくか、これから整理したいと思います。</p> <p>街並みをゆったりと歩ける環境かどうか、観光客や地域の住民が過ごしやすい環境かどうかという点については、おっしゃるとおり、商店街の通りは交通量が多いです。ただ、その交通をストップして違う所に振れるかということ、すぐにはできないのが現状で、その中で地域の方が住みやすく、まちに誇りを持っていただかないと、観光客の皆さんも「いいまちだ</p>
-----	--

	<p>な」とはなりません。ゆったりと歩ける状況がどのようにつくれるか、山崎の中心市街地の皆さんに意見をいただき、観光協会とも連携しながら、どのような形で進めていくか考えたいと思います。中心市街地の皆さんからのご意見を基に、今、道路の両サイドの歩道部分にカラーを入れる取組も進めています。そういった、歩かれる方の視点での整備も考えています。</p>
<p>委員</p>	<p>おっしゃられたとおり、観光客が通る所の交通量が一番多いです。道路を石畳風にするという話について、肝心の酒蔵通りが入ってないと聞いているのですが、そこはどうなっているのですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>酒蔵通りの所までの導線をしっかりつくるべく、八幡神社の通りに面する所まで整備の計画を持っています。ただし、年次的に進めるので、完成までには時間がかかるかもしれません。</p>
<p>委員</p>	<p>合併前は4町がそれぞれで、自分のエリアで産業や元気づくりの事業をしていました。15年前に宍粟市という、兵庫県の中で豊岡市に次いで2番目に大きな面積を擁する市になり、今、いろいろなまちづくりの意見が出て、この中にもたくさん反映されています。これに優先順位を付けたらどうなるのでしょうか。付けることがいいのかどうかも、私はわかりません。</p> <p>地域創生の戦略のテーマは、「森林から創まる地域創生」であり、森というイメージを宍粟市の一番の売り、生きる道にしていこうとしています。コロナの問題で、それは間違っていないと思いました。先ほど委員がおっしゃったように、農業に従事したい人が増えており、旬彩蔵、食彩館などの野菜中心の地産地消の部分は売上が伸びています。観光協会が担う一番の役割は、ネットワークを張り巡らすことだと認識して、いろいろな事業をしています。ただ、財源がありませんので、国・県の事業や市からの支援をメインに実施しています。</p> <p>大きな課題は、観光ステーションを皆さんに見える所に設置したいということです。この意見は10年近く前からずっとあります。宍粟市に来られた方への情報発信が観光ステーションの一番の役割です。「ふるさと宍粟観光条例」の中で市の役割、市民の役割、事業者の役割が明記されていますが、その役割をうまく果たすところまでいっていないことが、物事を進めるうえでネックになっていると思います。今、観光ステーションがないわけではなく、県立国見の森公園にある事務局が観光ステーションを担って情報発信やいろいろなことをしています。それが市民からは見えないため、不満になっているのではないかと思います。</p>

	<p>ここにいろいろ事業が挙がっていますが、基本的には自然の体験など、自然を利活用するものがメインになっています。例えばセラピー事業は、計画した時は体験などに予算を投入していろいろやりました。ところが、日本全国で、セラピーで成功している所はあまりありません。課題が多いから成功しないのです。何が成功かという視点も問題です。今のこういう状況の中で、自然の中でのカヌー、日本酒発祥の地などの体験をしながらのんびりと散策することを、1つの売りとしてこれから形づくっていきたいと改めて思っています。1,500人は、無理な数字ではないと思います。個々の計画については、市や皆様の提案もいただきながら取り組んでいきたいと思ひます。</p> <p>資料⑥-2の「初めての宍粟に出会う」は、昨年度の4月26日、姫路・太子のエリアで15万5,000部発行されている『リビング姫路』に宍粟市の特集として4ページ載せていただきました。その目的は、それぞれの町を一つの散策ツアーとして楽しんでいただけるということで、それによってどれくらいの効果が挙げたのかという検証をするためです。国見の森のモノレールでどこから来られたか確認しているのですが、ゴールデンウィークの期間中、姫路・太子エリアからお越しになった方は一昨年の1.5倍でした。このデータから、まず姫路エリアをターゲットにしてはどうかと思っています。</p> <p>山崎市民局の跡に駐車場を整備することを検討するという事なので、それでいいのではないかと思います。</p> <p>観光案内については、私は街あるきガイドをしていて、よく意見が出るのですが、その中心に観光ステーションがあれば案内しやすいと思います。また、セラピーのガイドをしているのですが、今は人数が伸びていません。セラピーは山登りの延長の人が多いことから、その方々以外への発信が弱いのではないかと感じています。去年、大阪で林野庁の行事に参加したのですが、そういうところでもPRするとか、企業向けにPRするなどすれば、セラピーをしたいという方が増えるのではないかと思います。</p> <p>以前、工業団地がないという意見を言いましたが、観光についても場当たり的ではなく、長期的に考えていただきたいです。山崎の交通量が多いのは、道が増えていないのも1つの原因だと思います。その辺りも長期的な目でいろいろ施策を行っていただけたらありがたいです。</p>
委員	<p>「商工業の振興」のところのワーケーション協議会への参画という意見についてですが、商工業だけでなく観光とも関係が深いと思います。ワー</p>

ケーションとは「バケーション+ワーク」、仕事をどこでもできる、いろいろな地域で仕事ができる場所を提供するということです。宍粟市の関係人口を増やす観点において、例えば企業研修で森林セラピーを使ってもらうためには会議室、ネット環境があって長期的な仕事も可能という施設の誘致が必要になってくると思います。今、鳥取県なども県をあげて一生懸命やめて取り組まれています。「検討していきます」とありますが、できれば課を超えて、宍粟市にどんな利益があるのかというところを担当課の方と意見を交えながら、ワーケーション協議会への参画に関して検討していただければと思います。

■その他

(1) 第5回宍粟市総合計画及び地域創生戦略委員会の開催日について

日時：令和2年8月31日（月）14時00分～16時00分

場所：宍粟市役所 401・402・403 会議室

■閉会